

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人 翌檜会		
事業所名	グループホーム「ばらいろ」	ユニット名	1
所在地	福岡市東区名子1丁目1番5号		
自己評価作成日	平成26年月日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年3月3日	評価確定日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者中心にゆっくり、のんびりとした時間が流れています。庭には四季折々の花が咲いており、1年間を通して楽しめます。又、色々なイベントやパーティーを行っています。毎月、保育園児の来訪もあり、子供たちとのふれあいを大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム「ばらいろ」”の廊下には、ご利用者の似顔絵が貼られている。ほぼ毎月交流している保育園児が描かれたもので、ご利用者の笑顔が溢れる時間となっている。理念にある“入居者や利用する方々が、生きる意義と喜びを見出せるよう”、管理者と職員は一心に日々の検討を続けており、体調の変化が見られた時も「すぐにカンファ！」を合言葉に、職員同士の話し合いを続けている。系列施設の連携もあり、理学療法士(PT)から“集団リハビリ体操”をして頂く事になり、系列のデイケアに来られているピアノの先生にお願いして、ホームでも音楽療法を行う予定にしている。家族からの意見も真摯に受け止め、個別ケアの在り方を“とことん”話し合うと共に、プロの職員として検討した事や解決策をしっかりと伝える姿勢も大切にしている。ご本人を思う気持ちは同じであり、今後もより良い方法を話し合い、ホーム名である「ばらいろ」に込められている“人生ばら色”になるように、“ご利用者全員”のアイデアを伝え合う環境を作っていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に繋がっていけるようにしている。	“利用者を尊重し、個々に適したサービスを提供する・・・”という理念があり、主治医の指示で入浴回数を減らし、清拭を行う方もおられ、体調変化に応じてカンファレンスを密に行っている。家族と一緒にケア内容の話し合いを続けており、ご利用者の“喜び”を増やす取り組みを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努力はしているが、まだまだである。	保育園児との交流があり、ご利用者の肩もみ等をして下さったり、ボランティアの方がオカリ演奏などをして下さり、楽しいひと時となっている。系列施設合同の秋祭りの案内を自治会長にお届けし、地域の方や子ども達が来て下さった。公民館祭りに作品を展示し、ご利用者も見に行く事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で各専門職による勉強会を開いているが、まだまだである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かせるよう努力している。	ケア内容や入浴の順番、会議の開催時間などを参加者全員で検討したり、民生委員の方から地域情報を教えて頂いている。26年度は勉強会も行われ、系列施設のPTから腰痛体操を教えて頂いた。食事会を行ったり、近所の方や家族の方が民謡や尺八の演奏をして下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。分からない事や、相談したい事がある時に電話連絡している。	運営推進会議に市（本庁）の職員や地域包括の職員が参加して下さり、情報交換をしている。ホーム内で課題が生じた時は報告し、ホームの現状を理解して頂いている。お風呂の改装も相談し、アドバイスを頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを置いたりと努力はしているが、離設の危険性がある入居者がいる為施錠している。今はドアセンサーの検討をしている。	身体拘束廃止委員会でホームの現状を報告すると共に、法人全体で身体拘束廃止の研修を行っている。行動障害が見られた時は原因を把握し、ご本人との話し合いも行われ、家族の協力で外出支援も行われている。入浴支援の時などに施錠する時もあるが、夜間以外は原則開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	努力している。	契約書に制度の記載があり、入居時に管理者が説明している。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換もできている。系列施設の全体研修で権利擁護の研修を受けており、GH協議会や福岡市の新人研修で権利擁護の勉強をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施できている。	面会時や家族会(年1回)、運営推進会議の時などに、日々の取り組みや課題を家族に報告している。家族の要望を伺うと共に、他のご利用者との関係性を含めて、家族と話し合うようにしている。要望に応じて福岡市(本庁)にも報告し、アドバイスを頂いている。	グループホームは集団生活であり、ご利用者全員が心地よく生活できる方法を検討している。今後も更に、食事の時間を含めて、毎日が楽しく過ごせるように、ご利用者全員の意見を引き出していく予定である。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングを行っている。	職員の意見は多い。管理者を中心に結束しており、会議で採用した意見(ケア内容)は1ヶ月実施し、1ヶ月後に振り返り、更なる検討を続けている。人事異動に関しても系列施設全体で話し合い、無駄な人事異動にならないための意見交換を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	努めている。	事務長と管理者が面接し、採用時は初任者研修を修了している方で、笑顔や優しさを大切に採用している。職員個々の能力(家事全般ができる・対応が優しい・素直・電気の取り替え等)を発揮して頂くと共に、職員個別の課題(スキルアップできる所)に向き合い、個々の成長を褒めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる。	管理者は“言葉遣い”に厳しく、必要に応じて職員に注意している。カンファレンスで、ご本人のできる事を引き出し、その方に応じた個別ケアを検討しており、新人職員も個別の育成を続け、短期間で成長が見られている。ご利用者の寂しさや不安など、行動障害の背景に向き合うように努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	関係作りに努めているが、なかなか信頼関 係が築けない所もある。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けるよう日々努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	築いていけるよう日々努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めていけるよう努力している。	馴染みの民生委員が来て下さり、団欒されている。家族と自宅に帰られたり、お墓参りや美容院に行かれています。ご本人の要望を家族に報告する事が多く、「地元のお魚が食べたい」と言う要望があり、家族と行かれた方もおられる。「お地藏さんに参りたい」との事で、お連れしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している。	センター方式と個別のアセスメント用紙を活用し、情報収集を続けている。「外に出かけたい」「家に帰りたい」「家族に会いたい」「人と話すのが好き」等の要望を把握し、実現できるように努めている。意思疎通が難しい方にも優しく声かけし、家族から生活歴やご本人の思いを伺っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	行っている。	ミーティングで日々のケアを振り返っている。主治医から医療面のアドバイスを頂き、食事や排泄、入浴等の支援内容を盛り込み、「洗濯物たたみ」「食事の挨拶」「お皿拭き」等の役割と共に、「雑誌を読む」「散歩」等の楽しみも入れている。今後は3表(日課表)の個別ケアを追記する予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録に日々の様子やケア等を記録し情報共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	協力医療機関と歯科医の往診が受けられる。家族が受診同行した時も含め、受診結果の共有ができています。職員の観察力も深くなり、異常の早期発見・早期対応に繋げており、1年前に比べて皆さんが元気になられている。系列のPTや管理栄養士からのアドバイスも頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあったらその都度報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んではいるが、まだまだ足りていないと思う。	看取りケアの同意書を頂いている。終末期は主治医と家族が話し合い、体調変化時は24時間体制で関先生から指示を頂き、入院の手配も行われている。管理者やホームの看護師が駆け付け体制があり、老健の看護師との連携もできている。医師や看護師から、ご利用者の症状や今後の体調などが伝えられ、職員同士で共有している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフでどのような対応をするべきなのか、いつも考えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いていきたいので、公民館に出向いたりして努力している。	併設施設と訓練しており、ご利用者への抜き打ち訓練も行われた。26年度は洪水想定訓練も行い、3階に避難した。災害に備えて自家発電があり、水や乾パン、リハビリパンツ等を入れたリュック(2つ)を玄関に準備している。消防署の方がホーム内の定期点検をして下さっている。	今後も地域の方との協力体制を深めるため、多々良公民館での訓練に参加したいと考えている。消防署との合同訓練や消防団との連携も希望しており、近くのコンビニの方にも訓練に参加して頂けるよう、準備を続けている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけている。	ご利用者の「寂しさ」や「自分を見て欲しい」と言う心理を理解し、ご本人への寄り添いを続けている。ご利用者個々に触れて欲しくない話題があり、会話の時に配慮している。ご利用者同士で言葉が強くなる時もあり、職員が間に入り、少しでも心地よく過ごせるように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、まだまだ努力する所もある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援していきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できていると思う。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる入居者の方は一緒に行っている。	併設施設で調理している。職員や地域の方の差し入れで一品料理を作る時も多い。行事食やおやつ作りの時は、ご利用者も手伝って下さり、テーブル拭きも毎日して下さる。庭でお弁当を食べたり、バイキング料理も楽しまれており、今後も食事時間が楽しくなる方法を検討予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。自分でできる人は声掛けを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。	下着着用の方もおられる。パッドの利用も少なく、排泄が自立している方も増えている。立位で排泄する時の失敗を減らすため、職員のアイデアで、足を置く場所にラインを引くなどの取り組みが行われた。排便の個別ケアも続けており、主治医への相談も行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	支援している。	お風呂好きな方が多い。全員が心地よく入浴できるように入浴の順番票を作り、ご利用者同士の話し合いも続けている。菖蒲湯や柚子湯を楽しみ、馴染みの固形石鹸と桶を使用する方もおられ、ご自分でできる所は洗われている。浴槽が深く、浴槽の改装が予定されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今後さらに支援していきたい。	ホーム周辺を散歩したり、無料販売で買い物をしている。近くのお店(コスモス)やコンビニに出かけたり、回転寿司や“さんぞく屋”での外食、喫茶店(NANの木)でコーヒーとケーキを楽しまれている。老健の方に大型車の運転をして頂き、花見や久山のカシ見学に行かれたり、志賀島へのドライブや野球観戦、お芝居見学、映画鑑賞等も楽しまれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はないが電話をかけたいと言われたらかけている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月1回席替えをしたり、模様替えをしたり、気分転換できるようにしている。	不審者対策のため、防犯カメラを玄関に設置した。玄関や廊下に椅子やソファがあり、お好みの場所で過ごされている。廊下に写真を貼り、ご利用者や家族も楽しんでいる。ご利用者同士が心地よく過ごせる方法を検討し、リビングのレイアウトは適宜変えており、リビングからの眺めも大切に、庭に花を植え、植木の高さも低くカットした。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置くことで、みんなで集まって談話をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話し合って、しています。	テレビやダンス、鏡台、藤の椅子、冷蔵庫などを持ち込まれ、家族の方も居室で過ごされている。ご本人が家族に依頼し、手芸用品(クラフト)を持ってきて下さる方もおられ、日記を書いたり、“そろばん”や計算ゲームを持参し、居室で計算に励まれている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が通る所には特に置かないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				